

ゾーニングの考え方

テーマや対象年齢を明確に区分した、分かりやすい展示空間を構築

体験テーマや対象年齢に応じて、フロアを2つのゾーンに明確に区分する。

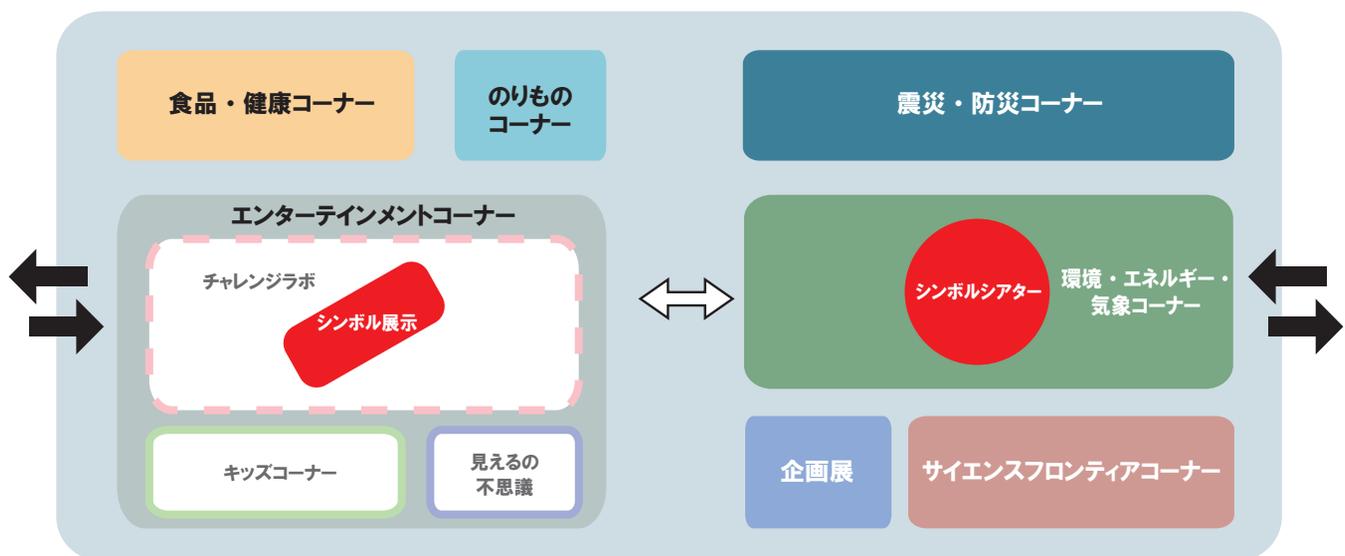
1つ目は、子どもたちが楽しめる参加型実験や錯視などの体験、乗り物に関する展示などを中心に扱い、【子どもが科学に触れるきっかけを育むゾーン】とする。

2つ目は、エネルギーや気象・震災・最新の科学技術についてを扱い、【仙台を切り口として科学を考えるゾーン】とする。

ゾーニングイメージ

【子どもが科学に触れるきっかけを育むゾーン】

【仙台を切り口に科学を考えるゾーン】



各ゾーンの考え方

【子どもが科学に触れるきっかけを育むゾーン】

チャレンジラボの展開の場となるシンボル展示

各コーナーは子どもたちに身近な家など（キッチンやリビング、子ども部屋、車庫等）のしつらえの中で展開。生活に根ざした科学を、直感的に体験できるゾーンとする。

オープンスペース（広場）に配置したバスは、〈チャレンジラボ〉のステージとして活用し、ゾーンのシンボルとなる。

〈キッズコーナー〉は安全面への配慮から、ガラスで区画した中に設け、周囲からの視認性を確保する。

※外光を取り入れた明るい空間とする。

【仙台を切り口に科学を考えるゾーン】

シアターとして展開するシンボル展示

環境・エネルギー・気象コーナーをゾーン中央部のシアターで映像で展開し、シンボルとして位置づけることで、〈サイエンスフロンティアコーナー〉での可変的な展示手法とのバランスを保ち、一貫したテーマ性を特徴づける。

〈サイエンスフロンティアコーナー〉はゾーニングの変更が可能なしつらえとし、短期間での展示替えを想定した展開とする。

※展示照明で演出された空間とする。